

## 令和4年度第1回碧南市総合教育会議 会議録

1 日時 令和4年6月23日(木) 午後3時30分から午後4時25分まで

2 場所 碧南市役所 4階 庁議室

3 出席者

(1) 碧南市長 瀬戸田 政信

(2) 教育委員会

委員 伊藤 正幸、委員 高橋 世利子、委員 池田 香代子、委員 岡本 明弘、  
教育長 生田 弘幸

(3) 事務局職員

総務部長 遠山 隆夫、教育部長 岡崎 康浩、経営企画課長 杉浦 英樹、  
経営企画課主幹 堀田 葉子、学校教育課長 小島 広明、  
生涯学習課長 鈴木 善三、スポーツ課長 加藤 和彦、  
経営企画課政策推進係長 鈴木 洋平、経営企画課政策推進担当係長 井上 貴光

4 傍聴者 0人

5 議題

(1) 部活動の地域移行について

(2) 意見交換

6 会議の概要

(1) 市長あいさつ

日頃は様々なことに御協力いただき、ありがとうございます。

本日の議題となっている部活動の地域移行がどのようになっていくか注視しておりますが、柔軟な対応を行っていく必要があります。子どもたちにとって良い方向に向かうこと、先生たちの過度な負担とならないようにすることが必要だと思っております。

様々な課題がありますが、より良い教育環境を作ってまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(2) 議題

ア 部活動の地域移行について

学校教育課長が資料に基づき説明した。

〈意見・質疑〉

教 育 長 部活動は68年間続いている歴史あるものであり、教師は子どもの命を預かり、指導をしております。ただ、スポーツや吹奏楽が専門で教師になっている者だけではありません。専門性のある外部指導者を集めることにより、そのような教師の精神的な負担を減らしていきたいと考えております。

指導の専門性を高めるために、地域の指導者を入れていきますが、教師も一緒にやる必要があるのではないでしょうか。保護者との対話は教師が担っていく必要があると思います。

そこで、この3年間は外部指導者を増やすことを行い、いつでも地域に移行できるような期間とし、教師もここに関わっていくようにしたいと考えております。他市の動向や国の方針の変化を注視し、様子を見守りたいと思います。

大人と大学生を組み合わせるなどして、120人くらいまで指導員を増やしていけないかと考えています。すでに行っております部活動支援事業では、50人程度しか雇えない予算規模となっておりますので、さらなる予算措置の拡充が必要と考えております。

市 長 市としても準備しておきたいと思います。

教師からしますと、専門外の部分で助かりますし、精神的な負担も減ると思います。地域と役割分担していくことが理想的なスタイルになるのではないのでしょうか。このチャンスを活かして、碧南なりの部活を作っていただきたい。

教 育 長 すでに行っております部活動支援事業は碧南市独自の取り組みで、3年前から夜間開放を利用して行っております。平日の夜間については地域移行の補助を行っていると言えます。ただ、週3日程度しか取り組めず、専門的な指導を受けたい子どもたちからしたら欲求不満かもしれません。この事業は、教師も地域も講師を担っていただいております。

市 長 良いものは広がっていただきたい。

委 員 部活動支援の方が、小さい子を含めて指導してくれれば、スポーツが盛り上がってくるのではないのでしょうか。

ラジオで聞いたのですが、フランスでは親が子を柔道場に習いに行かせる理由は、礼節を学んでもらうためにだと聞きました。勝ち負けが第一ではなく、スポーツをすることによって情操教育が行われます。もちろん、勝ち負けは大事ですが、地域でスポーツを盛り上げるのが大事だと思います。

市長 クラブチームでやっている子との区別をしていかないといけないのではないのでしょうか。

教育長 トップアスリートはクラブチームで育てられます。部活動は健全な心や体を身につけるためのものとして支援したいです。

委員 スポーツ以外の文化部の部活動はどうされますか。

教育長 吹奏楽部については、外部講師を募ってやっていきたいと思っております。様々な楽器があり、その専門家でないとそう簡単に指導できないと思います。碧南にも多くの人材がいますので、手助けをいただき、専門性のある指導をしていきたいと思っております。

市長 国から補助があると良いですが。

教育長 半額を出していただけると良いと思っております。代表者会議で訴えています。

委員 この議論は、働き方改革のために教育と無理やり紐づけていないのでしょうか。教育は別の土俵で考えるべきではないかと思っております。民間では、様々なことを小さくし、また、ITを活用するなどして、時間を作り、ワークライフバランスの実現をしています。

忍耐力や協調といった教育的なことを部活動に教えていただきました。その部分の議論は必要で、外部の講師の方に委ねるのではなく、先生の副業という形を入れたらどうでしょうか。先生の働き方改革はITの推進などで時間が作れると思っております。

市長 学校のIT化は進めていますが、授業など性質上できない部分があります。

教育長 通知表や指導要録の作成は簡単にできるようになりましたが、進路相談や生徒指導など時間外に対応をしないといけない場合があります。

委員 子どもが専門家である先生の部活動に入っていたので、親としては信頼して委ねていました。

子どもたちに、外部講師の導入はどうか聞いてみました。普段から知っている先生が専門的な立場でなくても、信頼している先生と一緒に勉強してくれているなら、先生についていきたいという意見がありました。先生抜きでは、生徒たちは不安なようです。外部講師に専門的なことを言われ、その指導の意味が分からない場合、一緒に活動している先生がいれば、日頃やっていることがこうなってるんだよと説明できるので、より専門的なことが身につくのではないでしょうか。

先生と外部講師の連携は図ることは可能でしょうが、子どもたちは違うので、外部講師との信頼関係ができなければ、顧問の先生から教えてもらった方が安心感と頑張る気持ちが出るとのことで、難しい問題と感じております。

本当に能力がある子が金銭的な理由でできないことが今でもあります。企業の寄附などバックアップをいただき、日々見守っている先生が能力のある子を引き上げられると良いと思います。指導だけでなく、金銭面でも地域に助けていただけたらと感じています。

小学校低学年の子が中央小学校の体育館やビーチコートでスポーツを行っているようで、その保護者から聞いたのですが、地域の先生も多く携わっていますが、参加者が少ないようです。前からこのような活動を行っているそうなので、うまく宣伝していただいて、このような市全体で取り組めるものがあればいいかなと思います。

教育長 これは、総合型スポーツクラブがやっています。小学生は学校でなく、ここが支えてくれています。小学校のスポーツは、すでに地域移行していると言えます。

委員 中学で定員割れしているクラブがあって、そのスポーツがしたい子たちを市全体で集まって、学校の先生と地域の方とで指導できるスタイルもいいなどの意見をいただきました。

教育長 今は、中小体連という枠の中で、2校が1チームになることはあり

ますが、5校集まってというのは認められておりませんが、地域移行ではそのようなことはあり得ると思います。生徒数が少ない西端中学校ではクラブの選択できないが、生徒数が多い南中学校だと様々なクラブが選択できます。このように生まれた場所で機会が奪われることを失くすことも、地域移行のメリットと言えます。

委員 子どもが平日夜間のバレーボールに通っていましたが、楽しみに通っていました。学校の部活動が3日くらいしかなく、もう少しやりたかったようで楽しく取り組んでいました。小学校の時にも、先生にバレーボールを教えてもらっていて精神的にも自信をもてるようになりました。時に厳しく、愛情をもって教えていただいて、とても良かったようです。

元教師の叔父が他市で小学校のバレーボールクラブと中学校のバレーボールクラブと部活動をボランティアで教えています。小学校から見ている子を中学校で指導できるため良いそうです。定年された先生がやってもらえると安心ですし、子どもたちも同じ流れでいけると良いのではないのでしょうか。

また、先生の働き方改革で、午後出勤で部活動を中心に行っていたくというのも良いかなと思います。

教育長 定年された先生でそのように活動できる方はあまりいないかと思っています。

市長 人を広く募る必要があるかと思います。

イ 意見交換  
特になし。